

岩井 優花（瑞陵高校→慶応義塾大学商学部）

入塾時期

高1 冬期講習

合格校

慶応義塾大学文学部

立命館大学経営学部

南山大学法学部

1. 創ゼミという塾について

この塾で良かったと思うことは、やはり先生たちの面倒見の良さだと思います。問題の解き方や時間配分などの参考書では学べない、実践的なテクニックを親身に教えていただけるのが点数を伸ばす上でとても役に立ちました。

また、先生が絶妙なタイミングで喝を入れてくれるのが助かりました。私は文化祭後などの勉強へのモチベーションがないとき、勉強モードに戻すためにすぐに塾に駆け込んでいました笑。

2. 特に力を入れて頑張った教科

私が力を入れたのは日本史と英語ですが、ここでは英語について書きたいと思います。

英語に関して皆さんに伝えたいのは、ターゲットを覚えることはゴールではないということです。ターゲットの暗記はあくまでも英文を読むための下準備であって、覚えたら英語が自然に上達するわけではありません。

実際に私はターゲットを覚えていたにもかかわらず長文練習を怠っていたために、高2の冬の共通模試では英語リーディング、リスニング共に4割という散々な結果でした。

しかしながら創先生にアドバイスを頂き、長文練習をほぼ毎日続けていくことによってこのようなひどい状態の私の英語もゆっくりではありましたが上達し、慶応に合格するレベルにまで達することができました。

英語が上達するにはとても時間がかかりますが、ターゲットを覚え、多くの長文を読みさえすれば確実に伸びる教科でもあります。英語を得意科目にするためにもターゲットをまだ覚えていないよという人はなるべく早く暗記に取りかかることをおすすめします。

3. 共通テストの重要性について

共通テストの重要性は二点あると思います。まず一つ目に、点数として大学合格が近づくこと。そして二つ目に、精神が安定することです。一つ目は皆さんも理解しやすいと思います

が、二つ目はどうでしょうか。私は自分が共通テストに失敗してから初めてその大切さに気づきました。

私の共通テストの第一志望の国公立におけるリサーチの判定はCでした。もちろんC判定であれば二次試験が上手くいけば合格する可能性があるとはわかっていながらも、第一志望の大学に対して合格したいという気持ちがなくなってしまう、それゆえ国公立の対策がはかどりませんでした。これはA判定がとれていれば起こらなかった話です。

私の話は極端な例かもしれませんが、共通テストで失敗してしまった人は多少なりとも精神が不安定になってしまうと思います。逆に上手くいった人は失敗した人が落ち込んでいる間にも二次に向けて悩むことなく勉強を続けられます。この精神の差が点数差よりも大きいし、合否を分けていると私は感じました。このような結果となってしまうためにも、共通テストの対策はしっかりと取り組むべきだと思います。

4. 合格までの道のり

どんなに勉強しても点数が思うように伸びなくて悩むことがあると思いますが、そういうときこそ勉強を続けるべきです。勉強しなければ現状は何も変わりません。また、そういうときは一旦意識的に悩みを考えないようにするというのも手だと思います。

受験期は長いように感じますが、あっという間です。受験が終わったときに悔いが残らないぐらい必死に勉強をすることが合格への近道だと思います。

5. 塾の小テストの重要性について

塾の小テストは、その時期には学習しておきたい最低限の内容が詰め込まれています。そのため小テストをないがしろにし、おさえるべき知識を取りこぼしてしまうと受験期になってから痛い目にあいます。先生がよい機会を作ってくれていると思って、ただ合格を目指すだけでなく全てを覚えようと本気で取り組むことが大切です。そこで得た知識だけでなくそのように勉強をした経験が、その後の受験勉強により影響を与えるように思います。

6. 後輩塾生へのアドバイス

自分なりのスケジュールを立てることが大切だと思います。日本史を例にすると、次の模試で8割以上取りたい→模試の2週間前には日本史の模試範囲の通史を終わらせるべき→そのためには1週間で20ページ進めなければいけない→だから1日3ページは進めるという形です。細かいことですが、段階目標をもって勉強に取り組むのと、最終目標のみをもって勉強に取り組むのでは、勉強への具体性が異なると思います。

また、その際にその教科にかける時間も大まかに決めておくと、より充実した勉強ができると思います。皆さんがそれぞれ望む進路に進めることを願っています。